

各地からの便り



「各地からの便り」の詳細は

森もりスクエア

検索

令和4年度 国有林 モニター現地見学会 を開催しました



【企画課】

令和4年10月29日(土)に、石狩森林管理署管内の国有林において、令和4年度国有林モニター現地見学会を開催しました。

当日は、道内各地の国有林モニター31名が参加し、間伐と植付の現場を見学しました。

午前は、恵庭市の森林整備事業(間伐)現場で、ハーベスタによりトドマツの立木を伐採し、長さがそろった丸太にする玉切りまでの実演と、グラップル付きフォワーダによる丸太の運搬と丸太を山積みにする一連の作業を見学しました。

午後からは、千歳市内で、令和3年と4年にカラマツを植栽した箇所を見学しました。この場所では、伐採時に発生する枝葉などをクラッシャーで粉碎して植付作業を効率化することや、大苗を植えることで下刈りを省略することなど省力化に向けた様々な試行をしています。

モニターの皆さんには、今回の現地見学会により、普段見られない間伐や植付の林業の現場作業について、理解を深めていただけたものと思います。

パイロットフォレスト 望楼の一般開放



【根釧西部森林管理署】

令和4年10月30日(日)、当署管内の標茶町と厚岸町にまたがる「パイロットフォレスト」で、そこに広がるカラマツを主体とした約7,000haにも及び人工林の景色を楽しむことを通じて、その成り立ちを知っていただくことなどを目的に、望楼の一般開放を実施しました。

今年は行動制限が緩和されたこともあり、昨年よりも多い40名の方が見られました。この望楼は、森林火災の監視を行うために建てられた施設で、高さ約24m、最上部にある展望室では、360度のパノラマを楽しむことができます。

来訪された方々には、望楼での見学のほか、当時使用していた機械類を保管している機械標本展示庫の見学やパイロットフォレスト造成の歴史を紹介した映像を見ていただきました。参加された皆さんからは「こんなに見渡す限りのカラマツに人手をかけて植林したなんてすごい」といった感想も聞かれ、秋のひとつときを堪能されていました。

林業 ICT 機器の 操作実演会を 開催しました



【資源活用第二課】

令和4年10月19日(水)、道央森林整備事業協議会と北海道森林管理局の共催により、胆振東部森林管理署管内の国有林及び(株)イワクラにおいて、伐採作業における安全性及び生産性の向上の取り組みとして、トランシーバー等通信機器を利用した操作実演会を開催しました。

実演会には林業事業体や林野庁職員など、約120名が参加し通信機器の使用方法的説明と実演がおこなわれました。

タブレット・スマートフォンに、伐倒業者やフォワーダなどの重機の位置情報や作業連絡、また、かかり木などの危険地点、森林作業道の線形などの情報が示される。位置情報の把握により事故の未然防止につながり、「見える化」による作業効率の向上、作業員間の連携向上にも役立っていると説明がありました。

実演ではフォワーダが土場まで移動してくる様子や伐倒業者がかかり木発生を想定した位置情報を送信し、グラップルでかかり木の処理を行うまでの重機の動きや処理後を画面で確認しました。

♪ 上士幌中学校第2学年「職場体験学習」♪ (林業の仕事はどんなものだろう?)

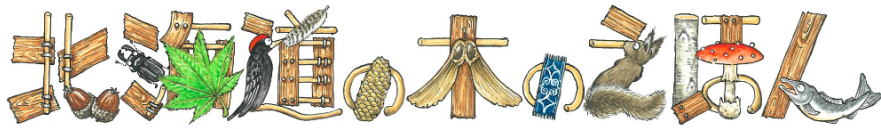


【十勝西部森林管理署 東大雪支署】

令和4年10月25日~26日にかけて、上士幌中学校2年生2名が支署の仕事を経験しました。最初は緊張の面持ちではあったものの、職員とマンツーマンでの職場体験、また、初めて見る林業の現場や、ドローン等の操作で次第に硬さもなくなり、2日間楽しく職場体験を実施することができました。

1日目は、支署長室で「職場体験」の内容の説明後、製品生産事業の現場の見学をしました。始めて見る生産現場の土場ということもあり、「ひろ〜い!」という感嘆の言葉と合わせ、生産事業の説明に大変興味を示していました。

2日目は、ノコギリを使用した丸太切りと森林保育の1つでもある「枝打ち作業」や現在はほとんど使用しない「トビ」を使っての丸太の移動を悪戦苦闘しながらも、必死になって丸太を転がす体験をし、生徒からは「2日間楽しく森林管理署の職場を学習しました。ありがとうございます」とのお礼の言葉がありました。



新作!!



ハンノキ

カバノキ科
ハンノキ属
樹高 15 ~ 20m

北海道の木のはん 11

ハンノキをあらわしたのさか
材は同じハンノキ属であるケヤマハンノキと混じって「ハンノキ材」として取り扱われることが多く、現在の北海道ではほとんどがバルブや燃料とされています。しかし近年、他の広葉樹より短期間で成長し、材が鮮やかなピンク色で柔らかく軽いハンノキの特性を生かして、子供やお年寄りでも扱いやすい器具も作られています。また、樹皮や葉からとれるタンニンには黒や茶褐色の染料として使われます。

アイヌ民族とハンノキ
ハンノキはアイヌ語で「コタン・ケネ」(産地のハンノキ)や「サル・ケネ」(産地のハンノキ)と呼ばれます。「ケネ」は「産地になる」という意味で、樹皮を削つても赤い液体がにじみ出てきます。絞った液を補血剤として用いました。

カヤマハンノキの葉と樹皮はハンノキと全く異なる

全ての漫画は、専門家や職人への取材・アドバイスを受け、学術的根拠に基づき北海道森林管理局の職員(平田美紗子)が水彩画で作成しています。学校の教材やイベントの資料としてもご利用いただけますのでお問い合わせください。

北海道森林管理局のホームページにて全ページを公開中です。

林野庁 北海道森林管理局 企画課
住所: 札幌市中央区宮の森3条7丁目70番
TEL(011)-622-5228

もり
広報 「北の森林 国有林」11月号
発行 林野庁北海道森林管理局
編集 総務企画部 企画課
〒064-8537 札幌市中央区宮の森3条7丁目70番
I P 電話 050-3160-6300
電話 011-622-5213
<https://www.rinya.maff.go.jp/hokkaido/>

今月の木 「クロマツ」
今月の表紙

クロマツは、北海道には自生していませんでしたが、潮風に強く、砂地でも生育可能なことから海岸林に植栽され、まつぼっくりは、クリスマスの装飾に利用されています。

クロマツのまつぼっくりのイラストを表紙の月数字に載せました。